

症例報告10

要旨

ストーマ周囲皮膚の合併症の発生率は高く、ストーマ造設患者の半数以上が生涯のうちにストーマ周囲皮膚の問題を経験しています¹。合併症の種類、原因、それらの治療方法は、それぞれ大きく異なります。医療従事者は、ストーマ周囲皮膚の合併症の管理に多くの時間と労力を費やしています。患者にとって、ストーマ周囲皮膚の痛みは、生活の質に大きな影響を与えかねません。ストーマ周囲皮膚の合併症は、ストーマ造設後の最も一般的な術後合併症です²。この症例報告で、そのような症例の1つをご報告します。

目的

患者に適した面板を選択し、ストーマ周囲に面板が適切に密着することで、ストーマ周囲皮膚の異常を改善させ、健康な状態を維持すること。

患者の概要

患者は中年男性で、引退し、自宅で家族と同居しており、非常に活動的です。はじめに、憩室穿孔に対する緊急手術のため来院し、一時的S状結腸単孔式人工肛門造設術を伴うハルトマン手術を受けました。回復は非常に順調であり、ストーマのサイズおよび形状は良好で、ストーマ周囲皮膚は平坦でした。初回手術から8日後、二品系装具を装着して退院しました。ストーマ周囲に皮膚刺激の所見はありませんでした。

問題

1回目の外来受診時、ストーマ周囲皮膚にかなりの刺激症状を認めました(写真1)。皮膚保護剤を評価したところ、膨潤し、溶解しており(写真1a)、皮膚に残留物を認めました(写真1b)。ストーマ周囲皮膚が絶えず湿っていたため、装具の適切な管理が常に困難でした。アセスメントでは、排泄物の漏れは認めませんでしたが、ストーマ周囲皮膚に発汗過多を認めました。

ケアの実際

1回目の受診時、皮膚表面の水分の吸収を高めようとして、湿って刺激症状を呈する領域にストーマパウダーを散布し、装具の皮膚保護剤の下に大きくハイドロコロイドのリング状用手成形皮膚保護剤を使用しました。

3日後、依然として皮膚の刺激症状を認めました。損傷して浸出液を呈するようになった領域にポビドンヨード液を塗布し、皮膚保護剤を2日に1回交換するように指導しました。数日のうちに皮膚症状の若干の改善がみられたものの、発汗に起因する皮膚の問題は依然存在しました。次の受診時、その皮膚領域には依然として水分に起因する症状があり、改善はみられませんでした。そのため、通常使用する装具を(患者は二品系が好みであったものの)単品系に変更してワイプ式皮膚被膜剤を追加し、交換の頻度を高めて皮膚を直接管理できるようにしました。患者は、接着と漏れが心配で長時間の外出ができないと述べました。

裏面に続く



写真1 皮膚保護剤の下にストーマ周囲皮膚の刺激症状。



写真1a 以前使用していた皮膚保護剤の溶解。



写真1b ストーマ周囲皮膚の皮膚保護剤の残留物。

セラプラス™

*リモイス技術使用

寄稿者および略歴

Jenny Gallaher RN, STN
クリニカルナースコンサルタント
(ストーマ、創傷管理)
クイーンエリザベスIIジュビリー病院
QLD州、オーストラリア

症例報告10

6回目の経過観察の受診時、依然として皮膚の発赤を認めました。「ニューイメージ セラプラス テープ付き」を導入し、装具を2日に1回交換しました。

結果

7日のうちに皮膚症状は大幅に改善し(写真2)、14日のうちにほぼ完全に回復しました(写真3)。装着期間の長い皮膚保護剤は、発汗過多によるストーマ周囲の水分を吸収して、ストーマ周囲皮膚の健康を保つことができるため、適切な成分でした。現在では装具を3日に1回交換しているため、以前の通り、長時間外出できるようになっています。患者はこの進歩に非常に満足していました。

結論

この症例は、ストーマ周囲の湿潤環境による皮膚障害(PMASD)の元凶が漏れではなく、ストーマ周囲皮膚の発汗過多によるものでしたので、対応が困難でした。さまざまな解決策を試したものの、「ニューイメージ セラプラス テープ付き」を使用するまでは、目に見える改善はみられませんでした。

ストーマ保有者の多くは、ストーマ周囲皮膚に問題が生じて、ストーマを造設したら、仕方のないこととしてそれらの問題を受けいれています。幸い、この患者は支援を求め、ストーマ周囲皮膚は目に見えて改善しました。皮膚刺激を軽減する手段として、ストーマ周囲の十分な密着を達成し、漏れを防止しても、ストーマ周囲皮膚を健康に保つには十分でないこともあります。皮膚保護剤の成分もストーマ周囲皮膚の健康に影響を及ぼします。皮膚保護剤の配合成分と密着性の適切な組み合わせを見つけることは、ストーマ周囲皮膚を健康な状態に維持するために不可欠です。

引用情報:

- Richbourg L, Thorpe J, Rapp C. *Difficulties experienced by the ostomate after hospital discharge.* J Wound Ostomy Continence Nurs. 34(1):70. 2007.
- Meisner S, Lehur P-A, Moran B, Martins L, Jemec GBE. *Peristomal Skin Complications Are Common, Expensive, and Difficult to Manage: A Population Based Cost Modeling Study.* PLoS ONE. 2012; 7(5): e37813.

この症例報告は、特定の患者に「ニューイメージ セラプラス テープ付き」を使用した場合の一人の看護師の経験を示すものであり、すべての症例に適応できるとは限りません。

ご使用前にパッケージに同梱された「製品の使用目的」「禁忌」「警告」「注意事項」、および「使用方法」を必ずお読みください。

Hollister(ホルリスター)のロゴ、CeraPlus、および「Healthy skin. Positive Outcomes. (『健康な肌』からより良い毎日を支える。)」はホルリスター社の商標です。

その他のすべての商標と著作権はそのそれぞれの所有者に帰属します。

製品の中にはCEマークがついていないものもあります。

© 2019 Hollister Incorporated.



リモイスはアルケア株式会社の技術です。



製造元 Hollister Incorporated

販売元 株式会社ホルリスター

0120-032-950



写真2 セラプラス皮膚保護剤を7日間使用開始後、著しい改善がみられます。



写真3 セラプラス皮膚保護剤を14日間使用後。